

[A年] 三位一体主日(2021年5月30日)**【旧約聖書日課】 イザヤ書6章1～8節**

¹ウジヤ王が死んだ年のことである。わたしは、高く天にある御座に主が座しておられるのを見た。衣の裾は神殿いっばいに広がっていた。²上の方にはセラフィムがいて、それぞれ六つの翼を持ち、二つをもって顔を覆い、二つをもって足を覆い、二つをもって飛び交っていた。³彼らは互いに呼び交わり、唱えた。

「聖なる、聖なる、聖なる万軍の主。

主の栄光は、地をすべて覆う。」

⁴この呼び交わす声によって、神殿の入り口の敷居は揺れ動き、神殿は煙に満たされた。⁵わたしは言った。

「災いだ。わたしは滅ぼされる。

わたしは汚れた唇の者。

汚れた唇の民の中に住む者。

しかも、わたしの目は

王なる万軍の主を仰ぎ見た。」

⁶するとセラフィムのひとりが、わたしのところに飛んで来た。その手には祭壇から火鉢で取った炭火があった。⁷彼はわたしの口に火を触れさせて言った。

「見よ、これがあなたの唇に触れたので

あなたの咎は取り去られ、罪は赦された。」

⁸そのとき、わたしは主の御声を聞いた。

「誰を遣わすべきか。

誰が我々に代わって行くだろうか。」

わたしは言った。

「わたしがここにおります。

わたしを遣わしてください。」

【使徒書日課】 エフェソの信徒への手紙1章3～14節

³わたしたちの主イエス・キリストの父である神は、ほめたたえられますように。神は、わたしたちをキリストにおいて、天のあらゆる霊的な祝福で満たしてくださいました。⁴天地創造の前に、神はわたしたちを愛して、御自分の前で聖なる者、汚れのない者にしようと、キリストにおいてお選びになりました。⁵イエス・キリストによって神の子にしようと、御心のままに前もってお定めにな

ったのです。⁶神がその愛する御子によって与えてくださった輝かしい恵みを、わたしたちがたたえるためです。⁷わたしたちはこの御子において、その血によって贖われ、罪を赦されました。これは、神の豊かな恵みによるものです。⁸神はこの恵みをわたしたちの上にあふれさせ、すべての知恵と理解とを与えて、⁹秘められた計画をわたしたちに知らせてくださいました。これは、前もってキリストにおいてお決めになった神の御心によるものです。¹⁰こうして、時が満ちるに及んで、救いの業が完成され、あらゆるものが、頭であるキリストのもとに一つにまとめられます。天にあるものも地にあるものもキリストのもとに一つにまとめられるのです。¹¹キリストにおいてわたしたちは、御心のままにすべてのことを行われる方の御計画によって前もって定められ、約束されたものの相続者とされました。¹²それは、以前からキリストに希望を置いていたわたしたちが、神の栄光をたたえるためです。¹³あなたがたもまた、キリストにおいて、真理の言葉、救いをもたらす福音を聞き、そして信じて、約束された聖霊で証印を押されたのです。¹⁴この聖霊は、わたしたちが御国を受け継ぐための保証であり、こうして、わたしたちは贖われて神のものとなり、神の栄光をたたえることになるのです。

【福音書日課】 マタイによる福音書11章25～30節

²⁵そのとき、イエスはこう言われた。「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました。²⁶そうです、父よ、これは御心に適うことでした。²⁷すべてのことは、父からわたしに任せられています。父のほかに子を知る者はなく、子と、子が示そうと思う者のほかに、父を知る者はいません。²⁸疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもて来なさい。休ませてあげよう。²⁹わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの轡を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。³⁰わたしの轡は負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」

「聖書協会共同訳」（2018年版）読み比べ

イザヤ書6章1～8節

1ウジヤ王が死んだ年、私は、高く上げられた玉座に主が座っておられるのを見た。その衣の裾は聖所を満たしていた。2上の方にはセラフィムが控えていて、それぞれ六つの翼を持ち、二つの翼で顔を覆い、二つの翼で足を覆い、二つの翼で飛んでいた。3そして互いに呼び交わして言った。

「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな
万軍の主。」

その栄光は、全地に満ちる。」

4その呼びかける声によって敷居の基が揺れ動き、神殿は煙で満ちた。5私は言った。

「ああ、災いだ。」

私は汚れた唇の者

私は汚れた唇の民の中に住んでいる者。

しかも、私の目は

王である万軍の主を見てしまったのだ。」

6するとセラフィムの一人が私のところに飛んで来た。その手には祭壇の上から火箸で取った炭火があった。7彼はそれを私の口に火を触れさせ、言った。

「見よ、これがあなたの唇に触れたので
過ちは取り去られ、罪は覆われた。」

8その時、私は主の声を聞いた。

「誰を遣わそうか。」

誰が私たちのために行ってくれるだろうか。」

私は言った。

「ここに私がおります。」

私を遣わしてください。」

エフェソの信徒への手紙1章3～14節

3私たちの主イエス・キリストの父なる神が、ほめたたえられますように。神はキリストにあって、天上で、あらゆる霊の祝福をもって私たちを祝福し、4天地創造の前に、キリストにあって私たちをお選びになりました。私たちが愛の内に御前で聖なる、傷のない者となるためです。5御心の良しとされるままに、私たちをイエス・キリストによってご自分の子〔直訳→養子〕にしようと、前もっ

てお定めになったのです。6それは、神がその愛する御子によって与えてくださった恵みの栄光を、私たちがほめたたえるためです。7私たちはこの御子において、その血による贖い、すなわち罪の赦しを得ているのです。これは、神の豊かな恵みによるものです。8神は、この恵みを私たちに溢れさせ、あらゆる知恵と思慮深さをもって、9御子の秘義〔神秘〕を私たちに知らせてくださいました。これは、前もってご自身で〔別訳→キリストにおいて〕お決めになっていた御心によるものであって、10時が満ちるというご計画のためです。それは、天にあるものも地にあるものも、あらゆるものが、キリストのもとに一つにまとめられることです。11キリストにあって私たちは、御心のままにすべてのことをなさる方のご計画に従って、前もって定められ、選び出されました。12それは、キリストに以前から希望を抱いている私たちが、神の栄光をほめたたえるためです〔別訳→神の栄光の称賛となるためです〕。13あなたがたも、キリストにあって、真理の言葉、あなたがたの救いの福音を聞き、それを信じ、約束された聖霊によって証印を受けたのです。14聖霊は私たちが受け継ぐべきものの保証〔直訳→手付金〕であり、こうして、私たちは神のものとして贖われ、神の栄光をほめたたえることになるのです。

マタイによる福音書11章25～30節

25その時、イエスはこう言われた。「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵ある者や賢い者に隠して、幼子たちにお示しになりました。26そうです、父よ、これは御心に適うことでした。27すべてのことは、父から私に任せられています。父のほかに子を知る者はなく、子と、子が示そうと思う者のほかに、父を知る者はいません。28すべて重荷を負って苦勞している者は、私のもとに来なさい。あなたがたを休ませてあげよう。29私は柔和で心のへりくだった者だから、私の轡を負い、私に学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂には安らぎが得られる。30私の轡は負いやさく、私の荷は軽いからである。」

黙想のためのノート**次主日聖書日課について**

・5月30日「三位一体主日」の日課主題は「神の富」。「三位一体主日」は、紀元325年に皇帝の招集により開催されたニカイア公会議で正統教義とされた「三位一体論」に基づく神観を標榜する記念主日であるが、教会暦に組み込まれるようになったのは、西方教会で10世紀以降とみられ、東方教会では記念されない。

・正統教義としての「三位一体論」は、ニカイア公会議で決定された後、381年開催のコンスタンティノポリス(コンスタンティノープル)公会議で修正された「ニカイア・コンスタンティノポリス信条」(一般に「ニカイア信条」と呼ばれるのはこの修正された信条)で示されている内容を指す。ただし、この信条の一部(聖霊の発出源が「御父」のみか「御父と御子」の両者かという聖書解釈上の理解)については、東西両教会で一致しないまま用いられ(この問題は、教理史上、「フィリオクエ Filioque 論争」と呼ばれている)、1054年の東西教会大分裂(ローマ教皇とコンスタンティノープル総主教が相互に破門を宣言)を引き起こすことになった。しかし、1960年代にローマ・カトリック教会が第二ヴァチカン公会議を経てエキュメニカル(教会一致主義)の立場に転じたことを機に、プロテスタント諸派および東方教会との一致の原点としての「ニカイア信条」の価値が再評価されてきている。なお、「使徒信条」は、2世紀にローマ教会で用いられていた「洗礼信条」に遡る「古ローマ信条」が起源とされ、西方教会では広く用いられているが、東方教会では用いられない。

・「ニカイア信条」に基づく正統教義における「三位一体論」は、「一つの実体(本質 *ousia* / *substantia*)、および、《父なる神》と《ロゴスである子なる神》と《聖霊》の三つの位格(*υποστασις* / *persona*)において、永遠に存在する」という定式で示される。

旧約日課(イザヤ6章より)

・「イザヤ書」は、前8世紀の南王国王宮に仕えた預言者イザヤに遡る「預言者イザヤの預言の書」を底本にしたと考えられる前半(1~39章=「第一イザヤ」と、預言者イザヤを祖と自認する「祭司=預言者の伝統継承集団」が南王国滅亡後のバビロン捕囚を経て同じ神学的視座に立って告げた預言を集成した後半(40章以下=「第二イザヤ」)に分けられる。

・日課箇所は、「第一イザヤ」に伝えられる預言者イザヤの預言者としての「召命」を自己証言する預言。イザヤは、祭司としてエルサレム神殿に仕え、祭儀を執行する営みの中で幻を見、神の告げる言葉を聞き取った者として自己理解している。「セラフィム」は、「ケルビム」と同一または対になる存在として認識されていた天使の一種。「ケルビム」は、「創世記」3:23で「エデンの園」の入口を守護する者として描かれるほか、モーセの出エジプト伝承の中で「神の掟の箱(契

約の箱)の上に二体(一対)の像として取り付けられたとされている。同じ趣旨で、ソロモン王が建設したエルサレム神殿では、内陣にケルビム像が二体据えられたほか、ケルビムの装飾が数多く施されていたとされる(王上6~7章、代下3章)。「エゼキエル書」の預言者エゼキエルもケルビムの幻を語っているが(エゼ1章、10章など)、エゼキエル自身はバビロンで祭司に任職されており、エルサレム神殿の実物は見ていないと考えられる。いずれにしても、預言者イザヤは、自らが神殿聖所の事情を良く知る祭司であることを示すことで、そこで「神の箱」=「神の言葉」に接しうる立場にあることを示そうとしているのであろう。

・この場面は、「エゼキエル書」1章などと共に、「ヨハネ黙示録」4章に描かれる、天上に引き上げられたヨハネが幻のうちに見せられた「天上の礼拝」の典拠になっていると考えられる。

・3節「聖なる、聖なる、聖なる万軍の主」は、「聖なる三唱」などと呼ばれ、キリスト教会の中では、「三位一体の神」または「至聖三者」に対する讃美として典礼に取り込まれてきた。西方典礼では、「Sanctus」と呼ばれて「聖餐」の「感謝聖別祷」の中で唱えられてきた。

使徒書日課(エフェソ1章より)

・「エフェソの信徒への手紙」については、二週前の「聖書と祈りの会 210512」資料を参照。

・日課箇所全体(3~14節)は、原文では文法上切れ目なく続けられた一文として記されており、修辞法などから、典礼文として整えられた詩文形式の讃歌とみなすことができる。パウロが、既知の讃歌を引用して用いたのか、讃歌に模して自由に創作したのかは分からない。全体構成として、3節後半~6節→「父なる神」、7節~10節→「御子キリスト」、11節~14節→「聖霊で証印されたわたしたち」と焦点を移しながら展開しており、「三位一体論」における一つの解釈聖句として重視されてきた。ここでは、特に「救済史観」に沿った神論(三位一体論)が展開されているとみることができる(4節、10節など参照)。

・日課箇所は、歴史的に「三位一体論」に関連する聖句として扱われることがあったにもかかわらず、実際に三位格の関係性などについて触れているわけではない。むしろ、パウロ神学でたびたび強調される「神の相続者としてのわたしたち」というキリスト者の自己理解(教会論)に焦点が向けられたものである。この「相続者」としての自己理解(教会論)を直接取り上げているのは、ローマ書(8:17)、ガラテヤ書(3:29、4章)であるが、エフェソ書も含めて、いずれも「異邦人の救い」を主要なテーマとして扱っているという共通点がある。すなわち、アブラハムの子孫としての「ユダヤ人」だけでなく、キリストによって「神の子」と認められたすべての「異邦人」が、「ユダヤ人」と区別なく、アブラハムに約束された神の祝福の「相続人」とされている、と主張されるのである。

福音書日課(マタイ 11 章より)

・日課箇所は、前段(20~24 節)と共に、「ルカ福音書」(10:13~15,21~22)に並行箇所が見られるが、末尾(28~29 節、ルカ 10:23~24)に異なる伝承を置いており、それぞれ独自の解釈の中で伝承を扱っている。

・25~27 節は、「ルカ福音書」の並行箇所(10:21~22)とほぼ異同のない内容となっているが、共観福音書の神学(神観、キリスト論、教会論)よりも「ヨハネ福音書」が 17 章などで展開する神学に類似したものとなっている。すなわち、「父と子と、子が示そうとする者」という三者が「父を知る」という点において一致しているとする神学である。これは、おそらく、初期キリスト教会の中で一定の広がりをもって共有されつつあった神学的定式と考えられ、「マタイ」と「ルカ」は、この定式を(無視できないために)取り上げながら、それぞれの神学的枠組みの中で整合させることを試みているのだろう。「マタイ」は、「山上の説教」に見られるように主イエスを「律法の完成者」と位置づけ、「律法」の最終的な教師である主イエスに聞き従うことが弟子たちにとっての目標として位置づけられている。そこで、その目標に向けて歩むことに倦み疲れた弟子たちに対して、「同行二人」的な励ましを与えてるのだろう。

・28 節「疲れた者」は、「労苦する／働く(コピオオ)」。肉体労働的な視点の語で、精神的な意味は薄い。

・29 節「柔和(プラウス)」は、5:5、21:5 でも用いられるマタイの好む用語(他の用例は I ペト 3:4 のみ)。

来週の誕生日 (5月30日~6月5日)

主日礼拝の讃美歌から

・21-351 番「聖なる聖なる」(=☐12 番、☐66 番)は、19 世紀初頭に英国教会司祭として詩作に活躍した R・ヒーバーが「三位一体主日」のために作詞。曲は、この歌詞のために 19 世紀に教会音楽家として活躍した英国教会司祭 J・B・ダイクが作曲し、「NICAEA (ニケア)」の曲名が付されている。

・21-60 番「どんなにちいさいことでも」(=☐58)は、は、1966 年版『こどもさんびか』の増補版として 1983 年に出版された『こどもさんびか 2』のために作詞作曲された。作詞は、幼児教育とその指導者育成に携わった菅千代。作曲は、作曲家・広瀬量平。

・21-516 番「主の招く声」は、S.ウエスレーに影響を受けて教会音楽家となった 19 世紀英国人ソプラノのオラトリオ「ユディト」の中の曲で「讃美歌集」(1924 年版)に採用された旋律に、新しい歌詞を付けて歌うべくグリーンが 1981 年に作詞した。英語原詞は 4 節だが、日本語訳では 5 節に拡大してまとめている。

・21-564 番「イエスは委ねられる」は、マタイとルカにある主イエスの宣教命令を歌う新しい讃美歌。原曲の 1,2,5 節が採用されている。作詞者ローソンは英国教会の司祭から米国聖公会に転じて大学で礼拝学を教授。作曲家テイラーは 20 世紀英国教会の司祭で、王立協会音楽学校のチャプレンとして歌集編集や作曲、新しい讃美歌の普及に貢献。

21-351「聖なる聖なる」

Holy, Holy, Holy, Lord God Almighty

1. Holy, holy, holy! Lord God Almighty! / Early in the morning our song shall rise to thee. / Holy, holy, holy! Merciful and mighty, / God in three persons, blessed Trinity!
2. Holy, holy, holy! All the saints adore thee, / casting down their golden crowns around the glassy sea; / cherubim and seraphim falling down before thee, / which wert, and art, and evermore shalt be.
3. Holy, holy, holy! Though the darkness hide thee, / though the eye of sinful man thy glory may not see, / only thou art holy; there is none beside thee, / perfect in power, in love and purity.
4. Holy, holy, holy! Lord God Almighty! / All thy works shall praise thy name, in earth and sky and sea. / Holy, holy, holy! Merciful and mighty, / God in three persons, blessed Trinity.

21-516「主の招く声」

How clear is our vocation, Lord

1. How clear is our vocation, Lord, / when once we heed your call: / to live according to your word, / and daily learn, refreshed, restored, / that you are Lord of all, / and will not let us fall.
2. But if, forgetful, we should find / your yoke is hard to bear; / if worldly pressures fray the mind, / and love itself cannot unwind / its tangled skein of care: / our inward life repair.
3. We marvel how your saints become / in hindrances more sure; / whose joyful virtues put to shame / the casual way we wear your name, / and by our faults obscure / your power to cleanse and cure.
4. In what you give us, Lord, to do, / together or alone, / in old routines and ventures new, / may we not cease to look to you, / the cross you hung upon / all you endeavored done.

21-564「イエスは委ねられる」

Lord, You Give the Great Commission

1. Lord, you give the great commission: / "Heal the sick and preach the word." / Lest the church neglect its mission, / and the gospel go unheard, / help us witness to your purpose / with renewed integrity: / with the Spirit's gifts empower us / for the work of ministry.
2. Lord, you call us to your service: / "In my name baptize and teach." / That the world may trust your promise, / life abundant meant for each, / give us all new fervor, draw us / closer in community: / with the Spirit's gifts empower us / for the work of ministry.
3. Lord, you make the common holy: / "This, my body; this, my blood." / Let us all, for earth's true glory, / daily lift life heavenward, / asking that the world around us / share your children's liberty: / with the Spirit's gifts empower us / for the work of ministry.
4. Lord, you show us love's true measure: / "Father, what they do, forgive." / Yet we hoard as private treasure / all that you so freely give. / May your care and mercy lead us / to a just society: / with the Spirit's gifts empower us / for the work of ministry.
5. Lord, you bless with words assuring: / "I am with you to the end." / Faith and hope and love restoring, / may we serve as you intend, / and, amid the cares that claim us, / hold in mind eternity: / with the Spirit's gifts empower us / for the work of ministry.